



大会実行委員会だより①



日本福祉文化学会
第31回全国大会《沖繩》

2020年度 全国大会は

11月28日(土)・29日(日)

沖縄県読谷村 だ！



めんそーれ！

— 第31回全国大会《沖繩》を開催するにあたって

第31回全国大会《沖繩》 実行委員長
(沖縄福祉文化を考える会 会長)

佐久本 真智子

令和2年のこの年、「第31回日本福祉文化学会全国大会《沖繩》」が沖縄本島中部の読谷村において、11月28日・29日の両日にわたり、開催されることになりました。

会場を擁する読谷村は、全国一人口の多い村(約41,000人)で、社会、経済、産業、文化などの諸活動がきわめて活発であるばかりでなく、村内には世界遺産に登録されている名城「座喜味城」をはじめ、「喜名番所」や残波岬灯台のすぐ横には、琉球王朝時代の進貢使“泰期”の像があります。

一方、75年前の大戦において本島で米軍が最初に上陸した土地でもあることから、戦争のむごさ、哀しさを物語るチビチリガマ・シムクガマなどが残されています。

ともあれ、読谷村は何かにつけて考えさせられる土地と言えましょう。“魅力”と“不思議”に満ち溢れた風光明媚なこの地で、初代会長の一番ヶ瀬康子先生の「平和なくして福祉なし」の理を学び、みんなで共有できることを至上の喜びとするものであります。

みなさん！ 11月28日(土)・29日(日)、読谷村でお会いしましょう。

福祉文化がつなく 沖縄の多様性

～過去・現在・未来から考える～



鳳（おおとり）のかたちをした、
ここが 読谷村（よみたんそん）です

沖縄の魅力はその多様性にある。また、一番ヶ瀬康子先生がお創りになられた「福祉文化」もまた多様な切り口を持った概念である。本大会では、過去・現在・未来の時間軸から、歴史（戦争や基地問題）、文化（琉球文化・世界遺産）、経済（観光や人口）、生活（女性や地域）を捉え直し、これら沖縄の多様性を「福祉文化」でつないでみたい。

日時：令和2年11月28日（土）・29日（日）

場所：読谷村地域振興センター（沖縄県中頭郡読谷村字喜名2346番地11）

1日目（11月28日・土）

午前 現場セミナー①
一番ヶ瀬康子先生【特別企画】
「メモラブル」セッション

午後 開会式
基調講演
シンポジウム
交流分科会
懇親会

2日目（11月29日・日）

午前 総会
研究報告（口頭・ポスター）
閉会式

午後 現場セミナー②&③

読谷村地域振興センター



基調講演

テーマ：学童疎開船“対馬丸”を語る
講師：平良啓子氏（対馬丸生還者）

シンポジウム

テーマ：福祉文化がつなく 沖縄の多様性
～過去・現在・未来から考える～
コーディネータ：山城紀子氏
パネリスト：松田敬子氏、高里鈴代氏、小川雅司氏

特別企画

一番ヶ瀬康子先生「メモラブル」セッション
全国大会が第30回を超えたことを記念して、学会創設者で初代会長である一番ヶ瀬康子先生の功績（思想、哲学、研究、実践等）やお人柄、楽しい思い出などを会員間で共有します。

現場セミナー

- 現場セミナー①
紅の里まるみの朝市
- 現場セミナー②
座喜味城址、ユンタンザミュージアム、チビチリガマ/シムクガマ、掩体壕
- 現場セミナー③
喜名番所、宙吹ガラス工房「虹」、やちむんの里

座喜味城址

